

世界のコインを楽しむ

第28回

平石 国雄

象を描いたコイン (1)



今回よりしばらく象を描いたコインを扱う。まずは古代ローマの象コインである。

最もよく知られているのが、ユリウス・カエサル（BC一〇〇〜四四年）のデナリウス銀貨（写真①、直径一八ミリメートルで約四・〇グラム）である。象が描かれている理由については、塩野七生氏が『ローマ人の物語（9）』（新潮文庫、一〇頁）で次のように語っている。「第一次ポエニ戦争当時に、カルタゴの象軍を向こうにまわして敢闘したユリウス一門の男がいて、その男にカルタゴでは象を意味する『カエサル』という言葉が、綽名としてつけられたらしい。綽名が『姓』である家族名に転化する例は、ローマでは珍しくなかった。」

古代ローマでは他にも多くのデナリウス銀貨に、象の全身像が大きく描かれている。共和制期のスキピオ、帝政期のアウグストゥス、ティトゥス、アントニヌス・ピウス、セプティミウス・セヴェルス、カラカラ（在位一九八〜二一七年、写真②）、直径一七ミリメートルで約二・一グラム）、フィリプス一世、フィリプス二世などである。

なお、ティトゥス（在位七九〜八一年）は象の全身像を描いたアウレウス金貨（写真③、直径一七ミリメートルで約七・五グラム）も出している。さらに、トラヤヌス、ハドリアヌス、アントニヌス・ピウスにより、アレクサンドリアで作られた銅貨にも象の全身像が描かれたものがある。

あまりポピュラーではないが、ローマ帝国の皇帝死後発行のセステルテウス青銅貨に、象のカドリガが描かれているものがある。こちらは戦車ではなく、車体の上に皇帝の座像が描かれている。アウグストゥス、マルクス・アウレリウス、ヴェスパシアヌス（在位六九〜七九年）のもの（写真④、直径三四ミリメートルで約二四・三グラム）が確認されている。



写真①ユリウス・カエサルのデナリウス銀貨



写真②カラカラのデナリウス銀貨



写真③ティトゥスのアウレウス金貨



写真④ヴェスパシアヌスのセステルテウス青銅貨